

懇談会 議事録

会場（ふれあい交流広場おぎ）

開催日：令和7年9月24日（水）

参加者：13名 職員21名

質 問	回 答
有害鳥獣について。今までに駆除された頭数の統計はあるか。	手元に正確な数字はないが、熊について今年は非常に多く、既に23頭ほど駆除している。いろいろな決まりがある中で、基本的に熊は専用の檻で捕獲・駆除する。イノシシも非常に多く、イノシシ用の罠の設置も行っている中、本来の目的で設置している罠での熊の錯誤捕獲もある。人家に近いところでの捕獲、町内で人身事故もあった。県との協議の中でできるだけ駆除している状況。前年と比べ10頭以上多い。法改正などもあるが捕獲の許可要件も緩和方向になると思われるので、国の様子を見ながら対応したい。
猿については。	小さい檻で捕獲をしているが、効率が悪いので、大きめの檻を固定の場所に設置して群れの中のある部分を追い込むように捕獲する方法を考えている。町内2カ所に設置している。緩衝帯整備が猿には有効であることから、県の事業や森林環境譲与税を活用した対策を進めている。郡の動向調査も進めており、参考にしながら広域的な取り組みを行っていききたい。 イノシシについては、罠を設置しても熊が獲れるため、実績はそこまで増えて来ない。一時期、豚熱の影響で頭数は減少したが、また増えてきた。銃の資格保有者を雇用し、駆除の対応ができる体制を取っている。お近くで被害等あれば情報提供をお願いしたい。
住宅施策について。ねざめ学園跡地は一定の広さがある。町の予算で住宅を建設することは厳しいと思われるが、不動産会社に貸すなどの住宅施策について検討はされているか。	現在、田代地区に1棟2戸の住宅を建築している。額として6,600万円。たくさん造りたいがなかなか難しいのが現状。旭町にある関西電力の社宅を町で借りて町の住宅として活用する準備を進めている。なるべく町でお金をかけずに住宅の確保をしていくことを考えている。例えば企業が企業用の社員住宅を造ったときのインセンティブを設け、企業による住宅確保を促すような取り組みを検討している。また、具体的にはなっていないが、民間の住宅会社が町有地に住宅を建て、それを町が借りて活用する方法もあり得る。いろいろな手段を考えながら住宅の確保を図っていききたい。ねざめ学園跡地の活用は現時点の長期的計画には入っていないが、空いている町有地の活用についてはこれからも考えていききたい。
旧荻原小学校プール周辺の環境が悪くなっている。埋め立てや撤去の具体的な計画はあるか。	現行は消防水利として管理している。費用面からも具体的な撤去は検討していない。近くに防火水槽を作ったため、役目を終えたと判断すれば、とりあえず水を抜き、準備できた段階で撤去するという流れかと思われる。
何年後とか、具体的な時期の見通しは。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な時期のお約束はできかねるが、できるだけ早い時期に。 ・とりあえず水だけは抜いて、事故が無いようにだけは。
周辺に竹などが生えてきているその辺もお願いしたい。	
防犯対策について。防犯カメラの設置についてどう進めていくか。町の考え方を聞きたい。	町内での設置は駅前と役場庁舎周辺だけ。今のところ検討はしていないが、必要性に応じて設置していくといったところ。維持の関係もあるし、「監視されている」といった声上がる可能性もあり、必要性を見極めながら進めるしかないと感じている。
今日、これだけ詐欺等が横行している時代に、証拠が残せない状況ではいけないと思うので、各区の主要なところには欲しい。今後の検討をお願いしたい。	都会では防犯カメラがあることが当たり前で、犯罪に対する効果も高いところ。上松町のような田舎だと「監視されている」という否定的な考え方を持たれる方も結構いる。住民の皆さんのご意見も伺いながらの進め方になっていくと思われる。必要なものであるとは思っている。予算の段階までは上がっていないが検討はしていきたい。
先日、上松町総合防災訓練があった。近隣町村ではエリアメールの活用があったが、当町の今回の訓練では無かった。今後の活用予定はあるか。	今回の訓練には取り入れなかったが、次回以降活用していきたい。エリアメールを送信する仕組みは既にある。
荻原小学校が閉校になってから、学有林を3区で管理しているが、町有林としてもらえないか。管理している人も高齢化している。閉校時に教育委員会へ打診したが断られた経緯がある。関西電力の線下伐採、鉄塔の借地料、森林組合による管理などがある。松山地籍で結構大きい。	今初めて聞く部分もあるので、持ち帰り情報を整理させてほしい。この部分以外にも立町区名で登記されている土地があったと記憶している。実態は、今は無いと思われるが、そのような土地か確認したい。
何年もお願いしていることだが、水路修繕を行っていただきたい。	今年も地区要望をいただいており承知はしているが、JRとの協議も必要になり、簡単にはできないといただいたこともある。
JRの境界は水路より線路側にあるため、協議によらず町で対応できると思っている。	

<p>織田建設課長より（発言） 国道19号線と木曾川右岸道路のダブルネットワーク強化、地域の皆さんの安心安全、企業活動の安全な実施のため、両道路を結ぶアクセス道路整備について、期成同盟会を昨年度に設立し、地区代表者、地元選出議員の方にも加わっていただいているところ。その要望活動の経過について報告します。 地域の課題として、国道19号線と木曾川右岸道路という幹線道路の複線化により利便性が図られたが、これらを結ぶアクセス橋が不足していること、豪雨災害時、これら幹線道路が通行不能となった場合、観光及び商工業など、多岐に渡り被害、影響を及ぼす恐れがあり、地元住民、福祉施設入所者、企業等が安全に避難できる避難路が無いことから住民の安心安全を確保する必要があることが挙げられる。立町地籍（配布資料整備概要図中、赤色着色範囲内）に安全に通行できるアクセス橋が欲しいとして要望活動を行っている。 経過として、 R6. 5. 27 期成同盟会設立（会長：野村弘氏、副会長：町長、顧問：大畑俊隆県議、永井町議会議長） R6. 12. 19 木曾建設事務所長へ要望活動 R7. 2. 4 長野県建設部長へ要望活動 R7. 8. 20 令和7年度期成同盟会総会 R7. 9. 1 木曾建設事務所長へ要望活動 R7. 9. 24 長野県建設部長へ要望活動 長野県からは、基本的にアクセス橋の必要性については十分認識している。また、進め方について町と協議をしていきたいとのニュアンスで回答を得ている。ただ、長野県としては木曾川右岸道路の全面開通を優先事項であるというスタンスであることから、期成同盟会としても長期にわたる取組みとなる。県担当者、大畑県議とも地元の熱意が重要であるとの言葉をいただいたことから、町としても皆様のご意見を取り入れ、ご理解を得ながら進めていきたい。野村会長からご発言をお願いします。</p>	<p>野村会長 町内に重量制限が無く、対面通行できるアクセス橋が欲しいということで、昨年5月に期成同盟会を設立し、区長をはじめ地元住民にも加わっていただいているところ。この地域には、福祉施設が集中し、工場や木材集積地もあり大型車両も頻繁に通行している。上松町は道路行政が非常に遅れていたところで、国道バイパスでは棧が最終で最近開通した。過去にも立町区から町へ要望がされていたが、ようやく南部3区の代表、地元選出議員も加えて進めているさなか。県へ陳情を行ってきたが、やはり地元としていかに必要かという熱意が大事であると伺った。町財政ではこの規模の橋を架けることはできないため、時間はかかるが県の指導をいただき、県の費用で造ってもらうことが目的なので、ぜひご協力をいただきたい。令和3年に土石流災害があったが、このような道があればスムーズに迂回ができ、通行止めが解消される。国道19号線と木曾川右岸道路が直接アクセスするところは棧から大桑村和村の間、およそ15kmにわたり無いため、ぜひ実現できるよう努めていくのでぜひ地元の後押しをお願いしたい。</p>
<p>植原副町長 写真にもあるように、川の幅、高さを見ると、下流に来ると深く高くなることから、下河原橋が今の場所にあるのは理にはかなっているとは思いますが。 先ほどから出ていた、プールやねざめ学園跡地らも赤い範囲に含まれています。橋の計画等も含めて今しばらくこの範囲内で検討していくという考えになっています。このような計画があるということをお知り頂いてご協力をいただければと思います。</p>	